

琉球大学学術リポジトリ

[巻頭言] 地域への貢献

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 泉, 裕巳 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015505

巻 頭 言

— 地 域 へ の 貢 献 —

会長 泉 裕巳

今年は卯年で字典によれば「十二支の4番目、方角は東、月は2月、時刻は午前6時、陽気地中より出ずる」とある。正に東から朝日が昇り、希望の太陽が光り輝き出すような明るい活気に満ちた光景を想像させるような年である。

数年来、21世紀に向けた沖縄振興策について各界各層から多くのアイデアがだされているが、農業に関する振興策が具体的な形となって見えて来ない。農業生産は、複雑な要因が関わりあっている自然環境の中で作物の生産能力に依拠して成り立つものであり、自然環境への適合方法を究明し、かつその条件整備を徹底しない限り生産能力を十二分に発揮させることは困難である。

沖縄は国内で唯一亜熱帯に属する地域であり、かつ島嶼環境下にある。しかも各島々の面積も欧米のような大規模農業が展開できるような地形ではない。かつ台風・干ばつの常襲地帯でもあり、農業生産には必ずしも適地とは言いがたい。しかしながら年間平均気温 23℃という温暖な気候と年間 2000 mmを超える降水量は他府県にはない特色であり、或る意味では恵まれた生産環境とも言える。

昨今の糖業事情は殊の外厳しく、もはや諦めムードかと寂しささえ感ずるが、400年来培ってきた糖業技術は栽培も含めて沖縄農業の基幹として重要な役割を果たして来たとし、また多くの研究データを蓄積してきている。これは貴重な資産であり、ある意味では資源でもある。再活性化を期待したい。

地域振興の原動力は、ほかの地域には無い、或いは見られない何かが其処にあり、その地域でしか成しえないオリジナル的な何かを創出することである。

これといった資源に乏しい沖縄では、振興・活性化の原動力を何に求めるかが最も大事なことであり、それは技術集約的生産技術ではないかと思う。今こそ研究者・技術者は総力を挙げて知恵を出し合い、先端技術を駆使して亜熱帯島嶼環境下における新しい生産技術の構築に向けて努力し、その中核としての役割を果たすべき時期ではないかと思う。

卯年にあやかり飛躍を試みたいものである。